「医」からアスリートをサポート

SYUTOKEN SPORTS 首都スポ

帝京大スポーツ医科学センター

アスリートを「医」から支えよう！　帝京大が東京・八王子キャンパス内に建設中だった地上5階、地下1階、延べ床面積約1万平方㍍のスポーツ医科学センターがこのほど落成した。全国大学選手権9連覇中の同大ラグビー部が勝ち続ける過程で蓄積した知見を、競技の垣根を越えてアスリートに還元する動きが本格化した。8月には東京・武蔵野で、トップイースト所属の横河武蔵野アトラスターズが「武蔵野アトラスターズスポーツクリニック」を開院。アスリートを「医」から支える試みを紹介する。（文、写真＝大友信彦）

ビッグスコア化へ

「ラグビー部は今、10連覇を目指している立場ですが、連覇が始まるほんのちょっと前には1回戦負けもあったんです」

3日に都内で行われた帝京大スポーツ医科学センターの開所会見で、ラグビー部の岩出雅之監督（60）はセンター誕生の秘話を明かした。

「そのとき（2006年度）はシーズン終盤に、主力のほとんどがけがを抱えていた。年間を通していい練習をしてきても、これでは何も出せない」

なぜ、けがが多いのか？

岩出監督は、医療技術学部のスタッフらに協力を仰ぎ、栄養プログラムや血液検査などを導入。徹底したけがの予防に努めた結果、08年度に大学選手権初優勝。その知見をもとに、V3を狙うことになる11年度、学内にスポーツ医科学センターが発足した。当初はキャンバス外の建物を間借りしての活動だったが、医療・栄養・トレーニングなど各分野の専門家が連携した効果は大きかった。

「センターができてから、大学選手権決勝のスコアが大きく変わりました」と岩出監督。09年度から3年間、決勝の点差は1～5と接戦だったが、12年度は17点差、14年度は43点差となるなど、ビッグスコア化が進んだ。

「けがをした選手がいても、医療面と栄養面、トレーニング面まで専門家の知見を生かして、いい状態で戻ってこられた結果だと思う」（同）

学外へも支援拡大

新センターは、地上5階、地下1階、延べ床面積約1万平方㍍のデラックス施設。国内唯一という8人が一度に入れる高気圧酸素治療室も備える。

「アスリートにとっては時間も大切。練習場所の近くにも、医療面と栄養面、トレーニング面まで専門家の知見をメリットです」（同）

さらに同センターではサポートを学外の選手や社会へも広げる意向。すでにサッカー元日本代表の本田圭佑（32）＝のサポートやピクトリーへのサポートを始めるほか、他の大学や社会人なども活動するスクールにも知見と設備を公開していくという。チャンピオンが生まれ、強くなった過程で得たノウハウを、日本の他のスポーツにも生かす。壮大な試みが一歩を踏み出した。

8人用高気圧酸素治療室を設置

栄養プログラム、血液検査…けが予防徹底

ラグビー部連覇で培った知見を集積

◆帝京大の全国大学ラグビー選手権9連覇◆

年度	優勝	スコア	準優勝
09	帝京大	14－13	東海大
10	帝京大	12－12	早明両
11	帝京大	15－12	天理大
12	帝京大	39－22	筑波大
13	帝京大	41－34	早稲田
14	帝京大	50－7	京都産大
15	帝京大	27－17	東海大
16	帝京大	33－26	東海大
17	帝京大	21－20	明治大

（注）丸数字は優勝回数

❶新設された帝京大スポーツ医科学センターの外観　❷国内で最大という一度に8人が入れる高気圧酸素治療室　❸広々としたトレーニングルーム＝いずれも帝京大提供　❹今年1月の大学選手権決勝で明大を破り9連覇を達成した帝京大、万全のサポートを得て、今季は10連覇に挑む！＝秩父宮ラグビー場で

左から、帝京大スポーツ医科学センターの加藤講師、空手部OGの植草、冲永理事長兼学長、松下センター長、ラグビー部の岩出監督＝東京都千代田区の帝京大霞が関キャンパスで

空手・植草「栄養考えトレ」

同センターのサポートを受ける一人として会見に出席したのが、空手女子組手68㌔超級の植草歩（28）＝JAL＝だ。空手部の練習に加え、同センターのトレーニング、栄養プログラムを導入してフィジカルを強化。16年に世界選手権を制した。

「前は68㌔ない状態で大会に入って、水を飲んで体重を増やして計量に臨んだり（笑）。今は、普段から栄養を考えた食事をとってトレーニングしているので、筋量も増えた」試合の終盤でもバテなくなりました」

大学では、現サントリー主将で日本代表の流大（ながれ・ひろし）と同学年。「学生時代は『なんでラグビーばかり脚光を浴びるの？』と思ったけど、流君は社会人2年目で主将になったり、やっぱりすごかったんですね～。負けてはいられない。自分は20年東京五輪の金メダルで進歩を証明する！」

武蔵野アトラスターズスポーツクリニック

女子チーム・アルテミスターズも創設

左から、横河武蔵野アトラスターズの山崎代表理事、横河武蔵野スポーツクリニックの大槻理事長兼院長、長谷川医師、運営するイーピストレードの寺井社長＝東京都武蔵野市で

山崎代表理事「ノウハウを地域に還元」

最新のリハビリ機器並ぶ

早明プロップ開院へスクラム

早明プロップがスクラムを組んだ。武蔵野アトラスターズスポーツクリニックの開院に尽力したのが、明大ラグビー部OBの亀田滋さん（46）と早大ラグビー部OBの石嶋正幸さん（47）だ。

2人は同学年でポジションも同じプロップ。6万人の観衆が集まった国立競技場でスクラム勝負を繰り広げたライバルだが、今はクリニックに出資した商社イーピストレードのメディカル事業部に勤務している。15年に鹿島アントラーズスポーツクリニックを立ち上げた同社で、ラグビーの拠点からも医療面のサポートをと、声走。「ラグビー仲間のネットワークを生かして、拠点を増やしていきたい」と2人は声をそろえた。

武蔵野アトラスターズスポーツクリニックの開院に尽力した早大OBの石嶋さん（左）と明大OBの亀田さん＝東京都武蔵野市の武蔵野アトラスターズスポーツクリニックで

1都7県の頑張るアスリート全力応援

首都圏スポーツ

ラグビーに限らず「医」からのアスリート応援を、地域に開放する形で実行に移したのが、トップイーストの横河武蔵野アトラスターズだ。8月1日、武蔵野市内のグラウンドから徒歩5分の至近距離に、「武蔵野アトラスターズスポーツクリニック」を開院した。

「スポーツ医療のノウハウを地域に還元して、武蔵野の地に新しい価値を創造したい」と話すのは横河武蔵野アトラスターズの山崎正晴代表理事。横河武蔵野スポーツクリニックの大槻理事長兼院長、長谷川医師、運営するイーピストレードの寺井社長、東京都武蔵野市で

❶女子のアルテミスターズが今季発足。地域のラグビースクールとも連携　❷タリニックから至近距離にあるグラウンドで男子のアトラスターズが地域に密着したクラブとして活動＝東京都武蔵野市の横河グラウンドで

医師の長谷川雅一医師ら開放感のある設計、休憩には、武蔵野市とい う立地があった。

「中央線沿線には大学が多くて、スポーツに打ち込んでいる学生も多いけれど、けがをしたときに相談できるかかりつけアスリートが多いんです」とクリニックはコンパクトだが、組織や骨密度の測定機、リハビリ機器には最新鋭の機が並び、女性アスリートには女性医師が診察する体制も。都市型市民スポーツクラブの新たな挑戦が始まった。

クリニックは外の自然光を取り入れ、曲線や隙間を生かした設計でアスリートのストレスを軽減している

女性には女性医師

活動に「医」を加えた